令和５年度　学校自己点検・自己評価

1．はじめに

自己点検・自己評価は、教育評価の一環として位置付けられ、実際の教育が当該の教育目標をどの程度達成したかを見極め、それを次の教育活動へフィードバックする手続きである。評価・結果から再計画・実施・評価を繰り返すことを、循環的・継続的に行い、教育活動の質向上を目指すことであり、自校の維持・発展につなげることが重要である。

前回、令和４年度に自己点検・自己評価を実施し、７つの課題を抽出し、重点目標に掲げて問題解決に取り組んできた。評価カテゴリーとして、大項目９領域、中項目 67 項目、小項目 116 項目を設定し、令和６年１月から２月に実施した。

2．自己点検・自己評価の目的

当校の教育の質向上のために、教育活動とその他の学校運営についての評価を行い、学校運営全体の課題を明確にし、組織的・継続的改善を図る。

3．自己点検・自己評価基準及び点検者

（1）評価基準

当てはまる・・・3　　やや当てはまる・・・2　　当てはまらない・・・1　　の３段階とした。

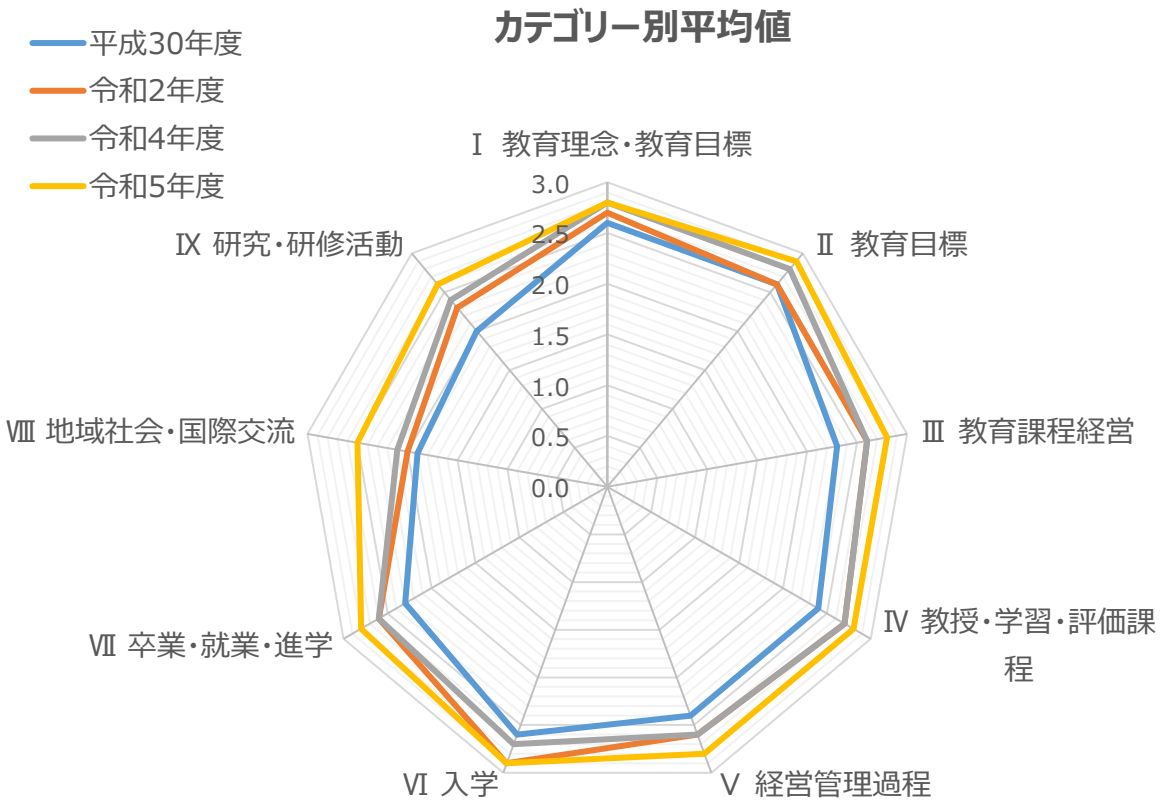
（2）評価者

看護教員　16 名

4．自己点検・自己評価結果

（1）大項目ごとの平均値を前回評価と比較

大項目	平成 30 年度	令和２年度	令和４年度	令和５年度
Ⅰ　教育理念・教育目標	2.6	2.7	2.8	2.8
Ⅱ　教育目標	2.6	2.6	2.8	2.9
Ⅲ　教育課程経営	2.3	2.6	2.6	2.8
Ⅳ　教授・学習・評価課程	2.4	2.7	2.7	2.8
Ⅴ　経営管理過程	2.4	2.6	2.6	2.8
Ⅵ　入学	2.6	2.9	2.7	2.9
Ⅶ　卒業・就業・進学	2.3	2.6	2.6	2.8
Ⅷ　地域社会・国際交流	1.9	2.0	2.1	2.5
Ⅸ　研究・研修活動	2.0	2.3	2.4	2.6



（2）自己点検・自己評価　評価の概要と課題

今回、点検項目・システム全体を見直した評価項目での実施は５回目である。
前回実施の評価・分析から５つの課題を挙げ、毎年の業務重点目標として課題解決に向けて取り組んだ。

前回と比較し、評価結果が優位なカテゴリー(大項目)は、９項目中８項目で、前回と比較してⅡ教育目標、Ⅲ教育課程経営、Ⅳ教授・学習・評価課程、Ⅴ経営管理過程、Ⅵ入学、Ⅶ卒業・就業・進学、Ⅷ地域社会・国際交流、Ⅸ研究・研修活動でポイントが上昇した。

教員で検討し作成した新カリキュラムの施行２年目の年度であるため、Ⅱ・Ⅲ・Ⅳについては教育目標・課程経営を念頭に置いたカリキュラムの進行となった。新型コロナウイルス感染症が５類感染症へ移行したことで地域活動を再開することができた。

Ⅸ研究・研修活動については、研究への取り組みと、研修講師・学会等で発表できたこと、地域でチーム医療論を構築したことが評価されたと考える。前回より評価が下がったカテゴリーはなかった。
Ⅶ入学で 18 歳人口の減少を鑑み、看護職を志望する社会人入試を入学試験枠に新たに加えた。８名の応募があり、うち３名が入学した。

令和５年度　学校自己点検・自己評価

学生の入学前学習や入学後の成績・意欲を追跡することにより、入学時からの学習への取り組みや意欲が重要であることがわかったので、意欲・学力のある学生を獲得する対策を更に考えたい。

Ⅷ地域社会・国際交流については、2.1 から 2.5 へポイントアップしたものの、9 項目中で最も低い評価であった。

千葉県の君津保健医療圏の医療看護実態を把握し、地域の特性を鑑みた新カリキュラム及びシラバスの作成により、本校の求める看護師が育成できるよう努めており、今後とも継続して行きたい。看護教育において臨地実習は重要な役割を果たしている。構成４市内の実習施設の協力を得て、全ての実習を４市内で実施できていることも地域の学びにつながっている。

国際看護学の講師に、海外で実働経験のある講師を確保することができたので、今後に期待している。海外からの留学生より入学についての問い合わせが数件あったが、受け入れについては今後検討が必要である。

君津保健医療圏唯一の看護専門学校としての使命を果たし、その強みを生かすため、更に評価の低いカテゴリーに対して取り組んで行く必要がある。また、今年度は、個人を評価するのではなく、学校評価の視点で教員が評価に取り組めるようになってきたと考える。

【今後の課題】

１．新カリキュラム３年間の運用からの結果評価
２．看護師国家試験全員合格に向けた取り組み
３．質の高い看護教育の実践
４．学びやすく・働きやすい学校環境づくり
５．危機管理マニュアルの作成